学校番号	T3017

令和８年度　学校設定教科

教科	（学）チャレンジ	科目	（学）経済的自立D	単位数	１単位	年次	４年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生計を立てる方法も多様化の時代となっている。本授業では、社会を生き抜けるよう、「将来、経済的に自立し、豊かな人生を送るためのスキル」を身につけることを目的とします。座学だけでなく、疑似株式運用や屋台運営といった具体的なビジネスシミュレーションを通して、お金の流れ、利益の構造、リスク管理、そして働くことの意義を体験的に学びます。これらの活動を通じて、社会人として求められる計画性、協調性、そして目標達成に向けた「稼ぐ力」を養いましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
卒業後の生活に直結する納税、契約、年金、資産形成（NISA 等）の実務知識を統合し、実生活における健全な家計管理とトラブル回避のスキルを身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
不透明な社会情勢や個人の価値観の変化を見据え、一貫性のある「生涯収支シミュレーション」を策定し、想定されるリスクへの具体的対処法を構築できる。
【学びに向かう力、人間性等】
自立した市民として経済活動に参画する意欲を持ち、生涯にわたって学び続け、主体的に「豊かな人生」を設計しようとする態度を完成させる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	屋台運営における予算作成、株取引シミュレーションにおけるポートフォリオ構成など、実践的な経済活動に必要な知識と計算能力を正確に適用できている。	屋台運営での課題（例：原価高騰）に対し、多角的な視点から解決策を検討し、根拠をもって改善提案を行うなど、経済的な判断力を発揮できている。	チームでの役割を自覚し、屋台の企画・準備・運営に献身的に取り組み、失敗から学びを得ようと粘り強く努力する姿勢がみられる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
集中講座	基礎経済と金融	・お金の歴史、金融の基本、インフレ/デフレの基礎知識。 ・株式、債券、為替の基本とリスク分散の考え方。 ・仮想の資金を使った株式運用シミュレーションを体験し、運用の記録と分析を行う。	a: 実務テストで、資産形成（NISA 等）や契約の法的責任など、卒業後に必要な知識を正しく説明できている。 b: 運用レポートで、自身のライフスタイルに合わせた資産運用の考え方を、リスク許容度の観点から論理的に記述できている。 c: 4年次として、将来の資産形成を自分事として捉え、公的制度などの情報を主体的に活用しようとしている。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	ビジネス実践	・グループを編成し、屋台・模擬店を企画・運営する。 ・企画書作成(コンセプト、ターゲット、メニュー)。 ・材料の調達と予算管理(原価率、人件費、諸経費の算出)。 ・販売活動(接客、プロモーション)。 ・最終損益計算と運営改善の反省会。	a: 決算において、貸借対照表（B/S）的な視点を含めた高度な経営分析・資産管理ができている。 b: 最終報告書において、ビジネス上のリスク回避策と利益最大化のプロセスを体系的に表現できている。 c: チームのリーダーシップをとり、これまでの学習の集大成として質の高い運営を完遂しようと努めている。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	キャリアと自立	・関心のある職業のリサーチと職業体験(職場見学・短期インターンシップ等)。 ・「屋台運営」で得た経験を、リサーチした職業に置き換えて分析する(例:原価率と給与の関係)。 ・将来の生活費や貯蓄目標を設定するライフプランニングを作成し、経済的自立に向けた具体的行動計画を立てる。	a: 初任給や一人暮らしの生活コスト、社会保険料の具体的数値に基づき、正確な家計試算ができている。 b: 生涯ライフプランにおいて、自身のキャリア展望と経済的自立を統合した長期的なビジョンを表現できている。 c: 社会へ出る直前の意識として、自律した経済主体としての責任感と「豊かな人生」への意欲を明確に記述できている。	レポート等の自己表現課題	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度